



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occ.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫 ■ 「聖地旅行」その⑬

その夜のこと、計画倒れになっていったイスラエル医療団との会合が実現した。実は東日本大震災が起った時に、真っ先に日本に援助の手を差し伸べてくれたのが、この医療団一行八十名であった。そのお礼をすべく、一昨日の夜に感謝会を予定していたのだが、その日に高名なユダヤ教のラビが死に、その葬儀のために八十万人もの人々が海外からエルサレムに集まるということで、市内の交通網が大変な混乱に陥ってしまい、医療団代表が来れなくなってしまうのだ。でもせっかくその準備をしてきたので、代わりに旅行社にそのお礼の盾をお渡しし、後日、代表者に届けてもらうことにした。そしてイスラエル国家を歌い、感謝のセレモニーをした。でもその代表団のオフィサー・メリン博士が夕食時に来訪したいというので、急遽、感謝会を催すことになった。イスラエルは世界のどこにでもすぐに医療団を派遣できるような医療体制ができ上がっているの、日本政府と交渉し、海外のどの国よりも真っ先に駆けつけてくれたのだ。でも医療行為はできなかった。日本の医師免許がないので、あくまでも日本人医療関係者のサポーターとしての働きしかできなかった。彼らの持参した医療器具は、震災地区のどの医療機関よりも整えられた機器であり、イスラエルのトップの医師団でもあった。でも彼らは粛々と日本人に仕えてくれた。

さて九日目、残り一日だ。今回の旅のハイライトの一つはヒゼキヤ王の時代に造られたトンネルを歩くことだった。紀元前八世紀に大帝國アッシリアがエルサレムに攻めて来たというので、王は城壁外にあるギホンの泉を埋めた。敵に水を与えないためであった。そして、その泉からトンネルを掘って城壁内に取り込もうとした。その出口がシロアムの池であり、全長五四二メートルもある。そこを一行がヘッド・ランプを点けて歩こうというのだ。はじめ数名の姉妹たちが「私には行かない」などと言っていたが、いざ当日になると、皆が短パンになって勇んでいる。稲野先生が先頭に立ち、僕がしんがりだ。先頭が「ここは深いよ」とか、「頭をぶつけないように」という指令を出す。それが電報ゲームのように後ろに伝わってくる。でも僕には、後ろにその声のエコーのように鳴り響くので、誰かが後ろにいるようで怖く、何度後ろを振り返ったことか!

イザヤ書に「主はあなたの前に行き、イスラエルの神はあなたがたのしんがりとなられる」(五二・12)とある。主が僕の後ろにおられるというのは、恐怖から守って下さるという約束だったのだ。それが初めて分かった(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

